長洲町立長洲小学校　校長便り　No.７５

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年２月２７日(月)

【徒然】

今週末はいよいよＰＴＡ主催の強歩会が実施される。令和２年度当初から取り組み始めたウォーキングの効果が発揮できるだろうか。

今回の強歩は４３㎞に挑戦するが、子供達のモチベーションはとても高いようだ。大人が考える常識など、子供達には関係ないらしい。参加する子供達は「絶対歩き通す！」と口を揃える。

強歩会の様に「挑戦」し、乗り越え「達成」し、成就感を味わえる行事は案外と少ない。参加する児童はお金では買えない財産を手に入れるだろう。

卒業前雑感　「自立性を高める」

丁度この時期、６年生は「友達と離れたくない」「１人になりたくない」という気持ちが強くなってきます。スマホを持つと、四六時中誰かとつながっていないと不安になり、スマホが手放せなくなることがあります。友達の条件でこんなことを聞いたことありませんか。「ラインの返事は５分以内にしないと友達じゃない。」って。大人の世界ではナンセンス極まりありませんね。精神的に自立できていないから仕方ないのかもしれません。中学校の３年間はこの「自立性」の基礎を養う絶好の機会です。友人関係が広がり、また多様な価値観にふれることができ、自分自身の価値観を育てる良い時期でもあります。そのためには、自分自身と向き合う、ゆったりとした時間がないといけません。ＳＮＳは早めに断った方が良いかもしれません。自分と対話する中で自立性を養い、価値観を培っていくのです。

では具体的にどうしましょうかと言われると困るのですが、例えばこんなのはどうでしょう。夏休みや冬休み、春休み、時間があるときに思い切って遠くにいる親戚の家に旅行させるとか…。今のご時世でできるかどうかわかりませんが、そういえば、私は中３の夏、受験勉強放ったらかしで、友達（現在、名古屋大学のスポーツ心理学の教授です。）と自転車で天草まで行ったことがあります。１泊（寝てませんけど…）２日の野宿ですよ。どこに行ったかというと姫戸町というところです。懐かしいなぁ。

中学校とは　～教科担任制～

中学校に入学すると、小学校とは違った学習形態に戸惑うことがあります。私もそうでしたが、教科によって担当の先生が代わることは、新鮮でもあり戸惑いもありました。といいますのも、それぞれの教科によってあいさつの仕方も違いますし、連絡の方法も違います。宿題の量や種類も違います。中学校で授業が始まりましたが、初めのうちは、流れに慣れるのが大変でした。そのうち、それぞれの先生方の個性を感じるようになり、その中に楽しさを覚えるようになってきました。また、先生方のくせや何気ないしぐさに、親しみを覚えるようにもなります。そのような先生方と、個人的にお話をする機会がきっかけとなって、その教科が好きな教科になったり、得意教科になったりします。中１当時の私の得意？とはいえませんが、どちらかというと点数が高かったのは英語でした。英語の先生は、恥ずかしがらずに声を出していた私に、よく声をかけてくださいました。ちょっとしたことがきっかけで、グンと伸びるのも中学生の特色かも知れません。子供達には、中学入学後早く生活に慣れ、学習と部活、生活のリズムを確立してほしいものです。

シリーズ「自分を語る」#75

学級の変容は早い時期から確認できました。私は特に何かをしたということはありません。逆に子供達に仕事をさせたのです。学校での活動の中で、教師の仕事と考えられていることさえも、子供達に任せる手立てはないかと考えて、多くの仕事をさせました。その仕事を更にスモールステップ化し、子供達への負担が少なくて済むようにして、成功体験を積ませていきました。あれよあれよという間に集団が変容しましたね。変わっていく姿は感動的ですらありました。子供達も面白がって、多くの係活動を設定しましたね。面白いのは、「澤田先生係」でした。休み時間に、私がよく子供達に雑用をさせたり、肩もみをさせたり？していたので、そのための係ができた訳です。その係を希望するのは何故か、いわゆる「悪ゴロ」が多く、その子たちはそれまでにあまり成功体験をしたことが無かったのか、私が肩もみを褒めると調子に乗って時間延長で肩もみをしてくれました。そんな子供達とはよく外で遊びましたね。同じレベルで走り回れる年齢でしたので、鬼ごっこでは子供達から「センセイ、はやっ！」なんて言われて、更にいい気になって遊び回りました。それが結果的に、集団に悪影響を与えていた一部の児童をこちらに取り込むことになり、私は大声で怒鳴り散らす指導をすることもありませんでした。穏やか～に子供達に「あれやっといてくれ、あとは任せた。」なんて言って、子供達も認められて良い気分、私も他の仕事に時間が取れて良い気分でしたね。子供達に仕事をさせる、主体的に仕事をさせるってことは、学級全体に活気が出ますよ。

学級が安定すると、私がやってきたのは３ヶ月のスパンで学級の目標を決めるということでした。４月の時点で学級の１年間の目標は決めています。その目標との整合が取れる範囲で色々な目標を設定します。５年生担任で設定した４つの目標は次の通りです。

①ナイトハイク（夏休み）に向けて決めたことをやり抜く
②運動会の成功に向けて決めたことをやり抜く
③陸上記録会に向けて決めたことをやり抜く
④５年生の思い出づくりと６年生に向けて決めたことをやり抜く

私が５年生児童に課したナイトハイクの距離は33㎞でした。玉名町小学校で検証済みの距離です。では、ナイトハイクを全員が歩き通すために何をすべきなのか？　これを担任の私が言ってしまってはダメです。子供達に考えさせます。初めに、「ナイトハイクってどんな行事？」という題で、私がオリエンテーションします。この話を聞き、相当な体力と精神力が必要だということを何となく理解するのですが、具体的に何をしなければならないのかについてはピンと来ていない様子でした。そこで私はこう言いました。

「４年生は朝から何やっている？　実はあれ、お前達と一緒に歩くために、そして負けないために毎日やってんだよ。」

子供達には、朝から４年生がやっているグランド１０周のランニングが浮かんでいました。しめしめとほくそ笑む澤田でした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）